

大学IRの視点からの InCites Benchmarkingの活用

森 雅生 (東京工業大学・情報活用IR室)



発表者紹介

- H8.4~H18.9 九州大学 システム情報科学研究所(助手)
- 18.10~H27.3 同大学 大学評価情報室(助教、准教授)
- H27.4~ 東京工業大学 情報活用IR室(教授)

◆ 専門 : 情報学


◆ 現在の興味 : 組織評価(特に大学)

関連する情報システムの開発

関連するデータサイエンス



IRとは？

- ✓ Institutional Research(機関調査、機関研究)の略。
 - ✓ 「機関の計画策定や意思決定に資する情報の提供」(Saupe 1990)
 - ✓ 米国では、早い大学では40年以上の歴史を持つ。
 - ✓ 70年代から、客観データに基づく大学運営・大学経営の重視。
 - ✓ 多くの大学では、専任のIR担当職員が在職(会計や秘書経験者)。
 - ✓ 米国のIRの主要業務: データ報告(学内外へ報告、年間30~50)。
 - ✓ 米国のIRの特徴: 教育に特化した調査が多い。
 - ✓ 大学執行部、部局執行部ともに中立的立場をとる。
 - ✓ 「大学のすべてのデータは大学のものである」という考え方。
 - ✓ 毎年3000人規模のカンファレンスが開催される専門職業界。
 - ✓ 欧州にもIRは存在するが、研究に関するデータ分析も担うところあり。
- 

日本のIRは？

- ✓ 2005年あたりから、米国のIRを参考に教育学の研究者が紹介。
- ✓ 特に、学生調査と学生成績を結合した分析に注目（教学IR）。
- ✓ 一方で、大学評価の業務負担に大学情報の管理活用への期待。
- ✓ さらに、研究や業務運営に関するIRへの期待。
- ✓ データサイエンスの大学運営への導入（研究と業務改善の両面）。
- ✓ 国立大学におけるガバナンス強化へのIRの活用が主張される。
- ✓ IR導入が私立大学補助金の基準に組み込まれる。
- ✓ 以上を踏まえ、IRへの過剰とも思える期待が寄せられている。
- ✓ 専門性：情報学、統計学、高等教育、組織論
- ✓ 組織：分析担当＋情報担当
- ✓ 技能：技術的知見 → 問題解決能力 → 政治的能力

● 分析専門部会の役割

● 情報専門部会の役割

執行部・分析依頼者

⑥ 意思決定

① 課題認識

Research
Questionの
発注

IR情報 支援 サイクル

McLaughlin & Howard, (2004)の
解説に基づき発表者改変

⑤ 報告
と提案

② 課題
の具体化

IR分析担当
の仕事

④ 分析と
考察

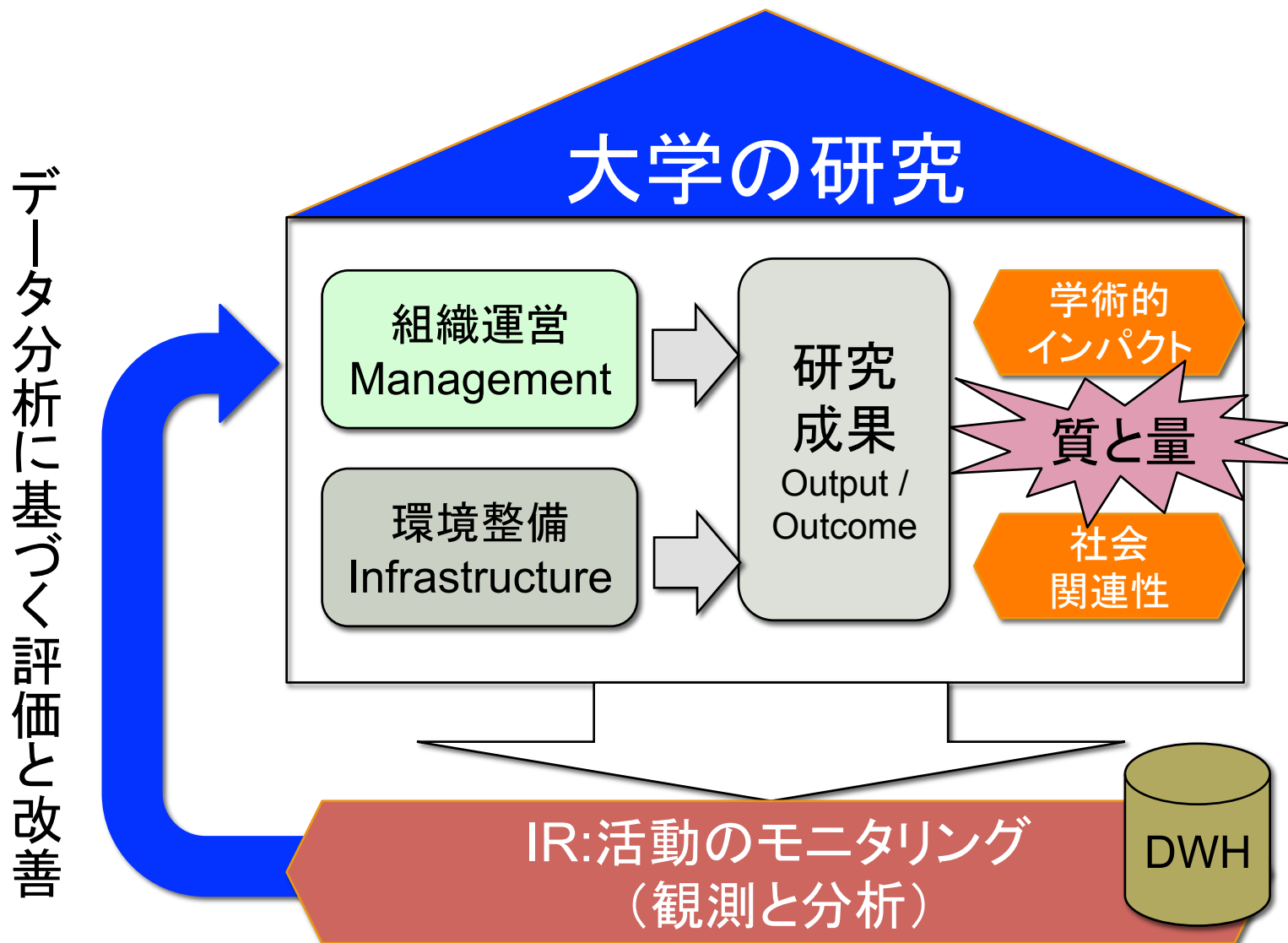
③ データ
収集

IR情報担当の仕事

IR分析担当
の仕事



研究活動に関するモニタリング

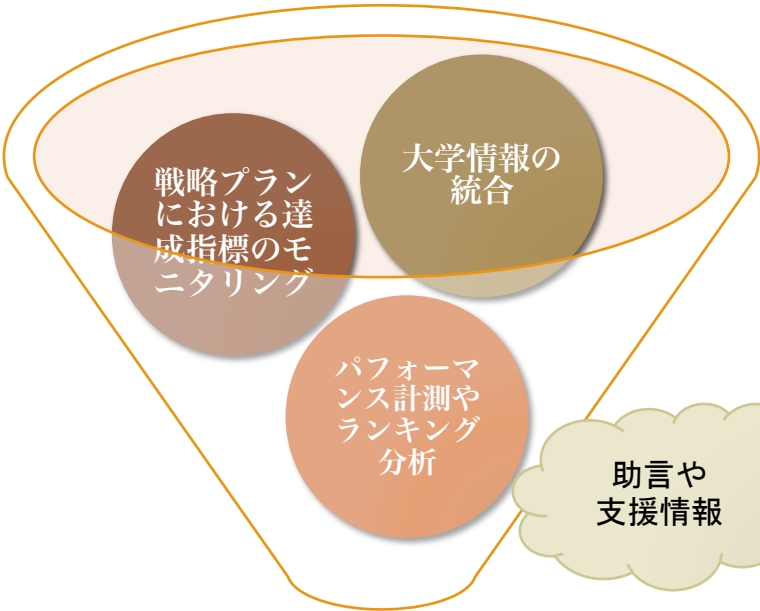


研究の内部質保証：分析の枠組み

戦略プランと業務プランの違い

戦略プラン
(例：SGU創成事業)

主な目的：教育研究の質「向上」

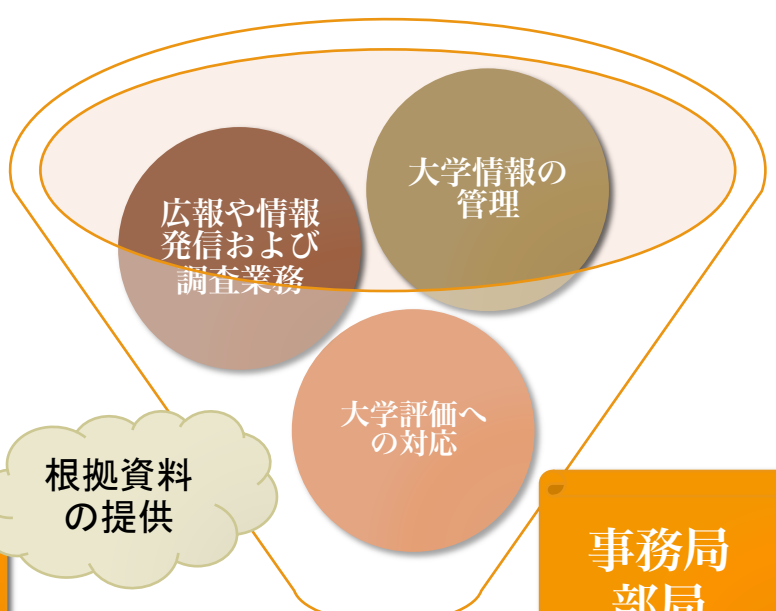


大学ガバナンスの強化と
質向上への寄与

戦略プランと業務プラン
におけるIRの違い

業務プラン
(例：中期目標中期計画)

主な目的：教育研究の質の「維持」



教育研究および業務運営に
関する改善への寄与



おわり

参考文献

Saupe, J. L. (1990). *The functions of institutional research*. Tallahassee, FL: Association for Institutional Research.

McLaughlin, G. W., & Howard, R. D. (2004). *People, processes, and managing data* (2nd ed.). Tallahassee, FL: Association for Institutional Research.

Howard, D.R., McLaughlin, G.W., Knight, W.E., (2012). *The Handbook of Institutional Research*, Wiley

森 雅生 (2015), 「実践的な機関調査とは」, 大学職員論叢, No. 2, 大学基準協会.